

第33回 評議員会（2014年5月24日開催）報告

於：朝日生命大手町ビル 27F

1：趣旨

日本ユネスコ協会連盟(以下日ユ)の第33回評議員会に九州ブロック選出青年評議員として出席した件について個人の責任の下報告を行う。

内容については当日の資料及び記憶に基づくものであり、数字等の正確性については必ずしも保証するものではないことを明記する。

2：今回の主な内容

- ・新規ユ協加入報告
- ・松田会長挨拶
- ・第32回評議員会議事要録の承認
- ・日ユ協連の事業報告及び今後の日程(案) (2014年1月～5月)
- ・2014年度事業計画書及び予算書について
- ・ユネスコスクールとの連携について
- ・質疑応答
- ・ブロック別情報交換会

3：個人的に印象に残ったこと、及び感想

- 今回新たにユネスコ協会として加盟したのは舞音の守ユネスコクラブ
舞音の守とは地名ではなく舞踊や和楽などの日本の伝統芸能を守ることを目的とした会とのこと。
- 会長の挨拶にて現在ユネスコ国内委員の安西会長らとともに有識者会議を行っているとのこと。
今後自立した活動を行っていくためにも団体の垣根を超えた一つのチーム構想を練っているらしくこれからの動きに注目したい。
また、次の世代の育成に力を入れていきたい旨も重ねて強調しており、その後の事業予算案の中でも助成金制度の拡充など、青年活動の強化が実施されていることを感じた。
- 2014年度の事業計画について
これについては以前から出ていることではあるが、事業計画及び予算案については3月の時点で理事会承認済みの案件となっており、内閣府提出済みであるため評議員会では仮にどんな意見が出たとしても変更することはできないものである。
評議員会のありかたとして疑問は残るが、内容について特に気になった点を以下に列挙する。
 - ・昨年度設けた5つのワーキンググループの成果を受け、可能な限り今回の事業計画に反映しているとのこと。
 - ・今年はESDの10年の最終年であり、日本から発信した内容でもあるため国内委員共々積極的に力を入れているところであるとのこと。
 - ・ユネスコESDパスポートについては昨年いくつかの協会でテストケース運用を行い、今後さらに

文責：大分県ユネスコ協会連盟 佐藤隆士
(九州ブロック選出評議員)

拡充していく予定であるとのこと。

- ・青少年育成事業に力を入れており、活動助成制度についても分野を広げて募集を行い、現在審議中であるとのこと。
- ・今年度のスタディツアーについては公益財団法人カメノリ財団の支援により実施となった。
- ・予算については全体的に減額の傾向が見られた。

特に、奨学金について3億4千万もの減額があるなど用途に対する見直しが大きく反映されたことが覗かれる。

その中であって青少年予算は増額となっていることも記載しておく。

これについては前述の青少年ユネスコ活動助成とESDパスポートの事業拡大が関係している。

- ユネスコスクールとの連携について

米田理事よりユネスコスクールとの連携について講話が行われた。

ESDの10年に取り組み始めた2002年にはわずかでしかなかったユネスコスクールが2008年の時点で705校になるなど、注目が集まっている点が強調された。

今後、ESDはユネスコ活動となり、日ユとしての具体策はESDパスポートであるとのこと。

これらについても今後の動向に注目したい。

- ブロック別交換会について

九州ブロックは人数が少ないため今回も北海道、中国、四国と合同で行われた。

ユネスコスクールの申請について申請してから認可されるまで年単位でかかってしまうことがあり、学校現場との齟齬が生まれていることや、先生の移動によるユネスコスクールの形骸化などが議論された。

大分にはユネスコスクール自体がまだ無いが、高校ユネスコのこれまでの流れと類似したものを感じた。

また、今回岡山にて青年活動が始まったことが報告され、中国、四国、九州の青年活動に参加していきたいとの打診もありとても有意義な議論ができたと感じた。

以上